

たくさんのお友達ができました。この旅行では、周南市から一緒にオランダに行った訪問団のみなさんだけでなく、たくさんのおファミリーの方とも交流会やいろいろな活動を通して仲良くなれました。メールアドレスを交換したので、これからも連絡を取り合い、もっと仲良くなれたらいいなと思います(私は前列真ん中)。

平成 23 年度

**Delfzijl**

友好親善  
訪問団



## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市立岐陽中学校 1年

**有吉 花香**

Hanaka Ariyoshi

日本を出発する前、以前から行ってみたいかったヨーロッパの地に立てるこのうれしきでワクワクする気持ちと、私の未熟な英語力でホストファミリーの方ときちんと話せるかとても心配でした。

私は、訪問団の友達と二人でホームステイしました。私のホストファミリーは仲の良いご夫婦でした。二人の娘さんはもう独り立ちしていらっしやるようで私たちが娘のように受け入れてくれました。

訪問団のプログラム以外でホストファミリーに動物園やデルフザイルの朝市、スーパーマーケットなどにも連れて行ってもらいました。食事は全部手作りです、どれもおいしかったです。英語が得意でない私が生活する中で自分の思いを一生懸命伝えようと悪戦苦闘している様子を見て、ホストファミリーは私にYESとNOで答えられるような質問をして私の思いを理解してくれるなど優しくサポートしてくれました。

オランダ訪問前にあった言葉への不安はホストファミリーのおかげですつと消え、毎日楽しく過ごすことができました。

デルフザイル市やオランダという国について、今回の訪問を考える前は全くと言っていいほど知りませんでした。訪問前の研修で市役所の方や同行する旅行会社の方から風土や文化、生活など、いろいろなことを教わりたくさんのお話を学ぶことができました。そして、訪問してみても教えてもらったことを実際に見たり、肌で感じたりすることで、さらに理解を深めることができました。



↑ エオリスの風車

周南市のゆめ風車のモデルになったエオリスの風車の見学に行きました。外からだけでなく、中の階段を上り、羽の裏のところに立ちました。狭くて急な階段で一生懸命登ったつもりでしたが、風車の半分ぐらいの高さでしかありませんでした。私は高いところが得意ではないので、かなり恐怖を感じました。

→ 大好きなホストファミリー

ホームステイするまでは、楽しい気持ちと不安な気持ちが半分ずつくらいでした。でも、バンホームメットご夫婦は、とても優しく親切にしてください、不安な気持ちはすぐにどこかに行ってしまいました。また、私は、英語が十分話せなかったので、少しの英語にジェスチャーを使って伝えると私の言いたいことをわかってもらえました。

日本に戻って来て、オランダが恋しくなりました。オランダの風景、オランダの食べ物、オランダの動物、オランダの建物、そして、オランダの人々、すべてです。そして、私は、もう一度、必ずオランダのデルフザイル市へ行くことを決心しました。そのために一生懸命、学校で勉強し、また、しっかり英語力を身につけ、もっともっとうるんな人とコミュニケーションをとり、私のことを知ってもらいたいし、相手のことも知りたいと思います。

今回のオランダ訪問では、日本語が通じる日本の中でも、まだ、自立して生活することが難しい私のような幼い子供を快く受け入れてくださったデルフザイル市のホストファミリーの方々にお礼を言いたいと思いました。また、今回の研修を計画してくださった市役所の方々、研修への参加を応援してください。岐陽中学校の先生方に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



☆☆☆☆☆☆☆☆

甘くて

おいしいクリーム

☆☆☆☆☆☆☆☆



オランダの人は  
いろいろなものに

たっぷりクリームをつけて食べていました。いちごやメロンなどのフルーツだけでなく、アイスクリームやヨーグルトなどにこんなにいっぱいかけて大丈夫と思うほどたくさんクリームをつけて食べていました。私も同じようにして食べてみるとすごくおいしくやみつきになりました。

♪♪♪♪♪♪♪♪

農場訪問

♪♪♪♪♪♪♪♪



ダーウィンケル家の牧場に行きました。到着してすぐに敷地の広さに驚きました。日本では牧場といえば丘や

隆起があり、一度に見渡せる所に限りがありますが、ここは見渡す限り平らで敷地の広さを感じることができました。その牧場の中を牛たちが決まった時間に道に迷わず、きちんと牛舎に帰ってきてとても驚きました。また、私達が行っている間にちょうど牛の出産が始まり元気な子牛が産まれる瞬間を見ることができ、とても感動しました。

ホストファミリーと最初に撮った  
写真です（私は前列右）。  
お父さんは背が高いです。

平成 23 年度

**Delfzijl**

友好親善  
訪問団

## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

周南市立須々万中学校 1年

**田辺 萌絵**

Moe Tanabe



最高の思い出が詰まった九日間。私はこの九日間で多くのことを学び、成長しました。オランダの文化、コミュニケーションのとりかた、そして心を通わせるということ。それぞれをオランダの方に教えてもらいました。

私の目標はオランダ訪問のなかで友達をたくさんつくるということ。オランダでは日本人はシャイだと思われているようでしたが、積極的に話しかけたいと思いました。

初めてデルフザイルに来た私、歓迎会で私には挨拶文を読む仕事がありました。挨拶文を読み終えると大きな音の拍手が聞こえてきてホツとしました。ホストファミリーとの面会、バツインガ夫妻はにこやかに温品さんと私を迎えてくれました。大きい手がとても暖かったです。

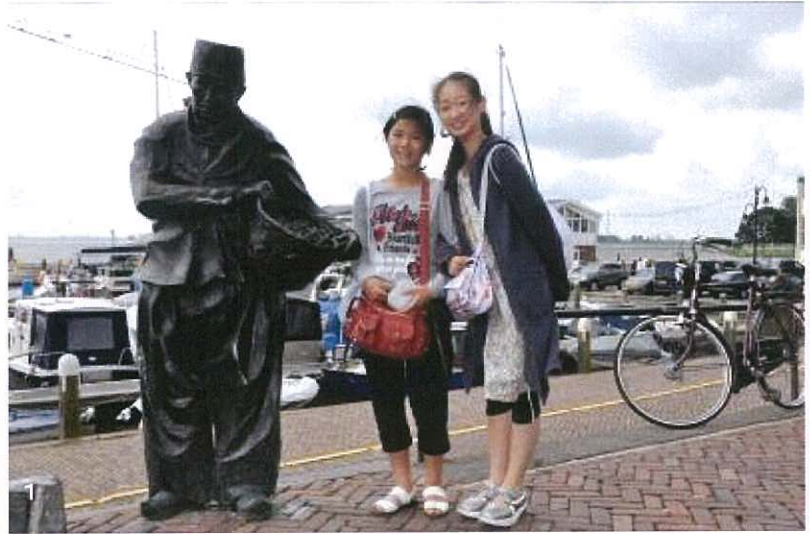
ホストファミリーと過ごした時間のなかで特に楽しかったのは、出店の並ぶ道を歩いた時です。オランダの人たちはみんな可愛い物が大好きで、気になる物(例えば縫いぐるみとか)を見る度に「かわいい」と言ってニコニコしていました。

日本人の趣味とオランダ人の趣味は似ているな、と思いました。私がそこで買った物といえは、オランダで有名な木靴と、ホストファミリーのお父さんが作った蜂蜜飴。どれも一目惚れ。蜂蜜も、もらいました。とてもおいしかったです。

みんな親切でした。

Youth exchange Delfzijl - Shunan City 2011

Delfzijl



- 1 港町に連れて行ってもらいました。後ろには船がいっぱいです。
- 2 ペットのイグワットとライカです。とてもおりの犬です。
- 3 観光地の木ぐつ屋さんにはかわいいデザインの木ぐつがいっぱいでした。
- 4 ホストファミリープログラムの時の昼食。すごい量の砂糖のバター。
- 5 オルゴール博物館のオルゴール。きれいな音で感動しました。



ホストファミリーのペットは二匹の犬で、一回だけですがファミリーと散歩に行きました。散歩の途中には日本家庭の食生活の話をしました。日本ではご飯・お味噌汁が食事のベースになっている、ということと話をするとホストマザーは「朝ご飯でも毎日食べる物を変えているよ。」と返事がありました。

生活のなかで英語をずっと話しているのですが、伝わらない表現もありました。例えば「お腹がいっぱいです。」は「I am full」とおなかをさすりながら言ったら、「おなか痛いの？」なんて勘違いをされてしまいました。オランダでは、「enough」という単語をよく使って、「full」という単語はあまり使わないそうです。バーベキューやパンケーキづくりでは高校生くらいのオランダ人の人達とも訪問団のメンバーとも、いっぱい話し、仲良くなることができました。笑顔で話してくれたので心から楽しく話せました。中には、日本語を教える欲しいなあ。と語っていた友達もいました。私もオランダ語をいっぱい教えてもらい「難しい！」などと笑いながら会話ができました。オランダの方は笑顔がとても素敵です！

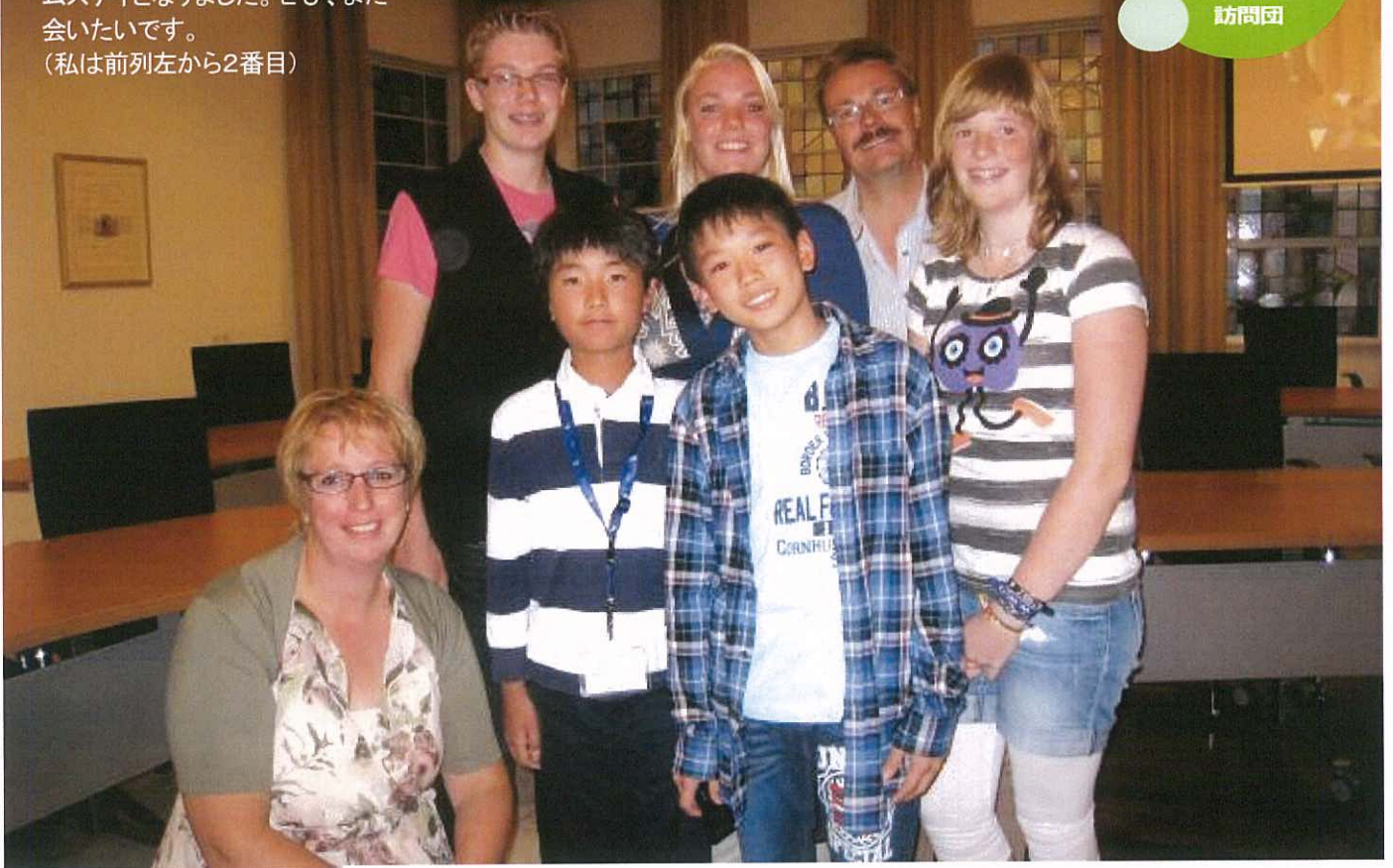
お別れの時、私はいっぱい泣きました。オランダの人たちは、笑顔で日本に帰って！と言っていました。みんな涙がとまらないようでした。何から何までお世話になり、最高の思い出を作ってくれた、訪問団員のメンバーと、私達を快く迎えて下さった方々に何回お礼を言っても足りないです。 Dank u wel!!!

お世話になったホストファミリーのブーンストラ家です。いつも優しく接してくれてとても楽しいホームステイとなりました。ぜひ、また会いたいです。  
(私は前列左から2番目)

平成 23 年度

**Delfzijl**

友好親善  
訪問団



## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市立周陽中学校 2年

**高橋 遼太郎**

Ryotaro Takahashi

帰国しての感想は、楽しかったの一言につきます。今からでも戻りたいです。

まず、なんといってもホストファミリーのブーンストラ家の人々がとても行き届いた世話を下さったこと。日常のことに不自由がないようにいつも気を付けて下さり、YESかNOかで返事ができるような話しかけ方をして下さいました。また、僕の片言の英語もよくわかってくれました。それでも、ブーンストラ家の皆は普段通りの生活をしているように見えました。僕は家族の一員になれたような気がしました。本当に感謝しています。

オランダの人々はゆったりと生活しています。風景も牧草地が広がり、運河が流れ、あちらこちらに森があります。家々はよく手入れされていて景色にとけ込んでいます。山がないので空が広く見えました。さすが風車の国だけあって風が常にふいており、雲の流れがとても速く見えました。

滞在中よくカモメを見ました。海から離れた牧草地でもカモメを見ました。日本のカラスのような感覚です。また、山口県ではあまり見られないカササギも庭先に来るぐらいたくさんいました。

食生活はやはり、日本とは違います。何種類か出たパンはとてもおいしく、ハムもすばらしい味でした。食事はポリュームがあってシンプルです。オランダの人々は甘い物が大好きなようです。野菜はあまり出ませんでした。日本での食事は色とりどりが並び一日に出来るだけいろいろな種類の食材を使って料理するのが良いと言われますが、ずいぶん違います。彼らの背の高さを見るにつけ、食事で大事なのは楽しくたくさん食べることだと思います。



今年には原発事故の影響で自然エネルギーを使ったクリーンな発電に関心が高まっています。そんな中、想像以上の規模の風力発電施設を見ることができたのはとても有意義でした。資源にとほしいという点では日本もオランダも同じです。エネルギーパークでは八十八基の風車を見ましたが、これからもっと増設するそうなので、巨大なフレードや部品が山積みになっているところは圧巻でした。日本でもクリーンエネルギーの発電が進めばよいなと思いました。

僕の日常は、学校へ行き、部活をし、宿題をこなすという目まぐるしい毎日です。今回のホームステイ中は時間がゆっくり流れていきました。かけがえのない思い出になりました。

これから僕は、もっと語学を身につけ、日本のことをもっと知っておきたいと思います。

そして、もう一度デルフザイルを訪れて、今度こそしっかりと話がしたいです。



- 1 バーベキューをした後に、ホストファミリーのレベッカさんとゲームをしているところです。日本にはないおもしろいゲームでした。
- 2 エームスハーフェンというところで見たくさんの風力発電用風車です。僕は、こんなに多くの風車を見たのは初めてで、そのスケールの大きさに驚きました。
- 3 朝食の様子です。毎朝とてもおいしいパンを食べ、オレンジジュースを飲みました。日本に帰ってから、あのおいしいパンが食べたくて仕方ありません。
- 4 ホストファミリープログラムの日におランダの華やかな伝統衣装姿で写真を撮りました。オランダの昔の生活スタイルが分かるような写真館でした。

平成 23 年度  
Delfzijl  
友好親善  
訪問団

## デルフザイル市友好親善訪問団に 参加して

周南市立周陽中学校 2年

### 長廣 将就

Masanari Nagahiro



お別れ会で最後の記念撮影  
ロナウド、リアありがとう！  
レベッカ、バス、ダニエル  
楽しかったよ！  
(私は前列右)

初めてのホームステイ、ホストファミリーのブーンストラさんは  
どんな人なんだろうと不安な気持ちで八月三日周南市を出発し  
ました。一日かかってアムステルダムに到着しました。市内視察を  
し、バスで三時間かけてデルフザイル市に行きました。歓迎会でブ  
ーンストラファミリーと初対面の挨拶をしました。お父さん、お母  
さん、レベッカさん、バス君、ダニエルさんの五人家族です。  
「わぁーみんな身長が高いなというのが第一印象でした。顔を  
見るとみんなやさしそうで安心しました。家に帰りブーンストラ  
さんは五人で、ずーっとしゃべっていて、なかなかとげこめませんで  
した。僕がウトウトしていると、DO YOU SLEEP??と聞かれ  
YESと答えると、GOOD NIGHTと素早く言われました。ビックリ  
しました。ブーンストラさんは、みんな、シヨッピングが大好き  
で、さっそく二日目の午前中も市場につれていってくれました。家  
族でシヨッピングを楽しみながら、いつのまにか五人の輪に高橋君  
と僕も自然に入っていました。本当の家族のようにお母さんは外  
出先でもここがトイレだよとか、分がりやすくシエスチャーで説明  
してくれました。お父さんはビデオと一眼レフのカメラで高橋君  
と僕を中心に一生懸命撮影してくれました。午後からのアドベン  
チャーは、イカダ作り、網渡り、アーチェリーをしました。右手で  
矢を引こうとしたら、左手たと言われ思った方向に飛びませんでした。  
英語の会話はなかなかうまくいきませんが、気持ち  
があれば通し合えるものだと思います。

日曜日のホストファミリープログラムの日は、温品さん田  
辺さんも加わり九人、車二台で出かけました。運転手は、  
お父さんとレベッカです。お父さんの車に、お母さんと高橋  
君と僕が乗りました。



木靴の店で記念撮影！

屋食のパンケーキは通常の二分の一ぐらいの大きさでしたが大量に出てきました。粉砂糖とバターがたっぷりついていたのでビックリしました。なんとか食べきると次は木靴の工場に連れて行ってもらいました。木靴はおきもの思っていたので驚きましたが履いてみて履き心地の良さに感動しました。あつというまに5日間がすぎました。

最後の日、家族みんなで記念写真を撮りました。ズーと撮影してもらったDVD二本、写真五百五十枚分のCDと日本の家族にと、たくさんのお土産、帰りに、お腹がすいたら食べるように、パンとジュースまでいただきました。五人のホストファミリーは僕達に気を使わず自然にやさしく接してくれました。DVDをもらった時は本当につれしくて心からありがとうと思えました。絶対に何年後かにオランダに行きブーンストラさんに再会しようと思えました。

今回のデルフザイル市友好親善訪問団に選ばれたことを感謝しこの気持ちを大切にしたいと思います。九月一日から始まる新学期で、僕は少し変われそうな気がしています。



ブーンストラ家の人々と町の市場で  
(レベッカ、バス、ダニエル)



ブーンストラ家の人々と市場見学  
(リア、レベッカ、バス、ダニエル)



屋食のミニパンケーキ  
粉砂糖の多さにびっくり！！



ブーンストラ家の人々といかだ作り中！  
(バス、ダニエル)







ホストファミリーとの写真  
(私は前列左から2番目)

## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市立翔北中学校 3年

廣林 早希

Saki Hirobayashi

オランダでの七日間は、あっという間に過ぎていきました。徳山を出発するときのドキドキ、ワクワク感は今でも覚えています。初めての飛行機で、はじめての外国、はじめてのホームステイとまだまだたくさんのはじめてを経験することができました。

日本語が通じない国で自分の言うことが通じるかがとても不安でした。でも、みんなとても優しくしてくれて、気楽に話しかけてくれたり、時には日本語とオランダ語を教え合ったりもしました。スーパーや商店街のような所、フリーの日には、ドイツにまでつれて行ってもらいました。私がお世話になったホストファミリーは農家だったので、毎朝7時頃、牛の「モー」という声で起きていました。

三日目と四日目の朝は農場体験をさせてもらいました。まだ生まれて一ヶ月や二ヶ月の子牛に朝ごはんをあげたり、乳しぼりをやらせてもらいました。私はすべて手でしぼるのかと思っていたけど、手ではなく、機械でしぼっていました。

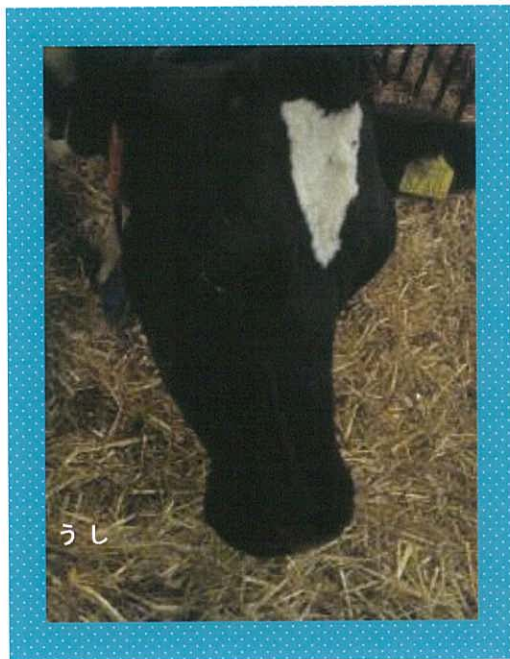
子牛にはミルクと、牛のドッグフードのようなものをあげました。子牛にミルクをあげると、吸い付くように飲んで、容器を取るときにはものすごい吸いつく力で容器をはなしませんでした。私は、牛も人間も変わらないなと思いました。



風車



ドム塔からのオランダ



うし

朝、牛小屋に行くと、子牛達は飛び起きて、「まっています」というように柵の間から頭を出していました。私は、はじめてこんな近くで牛を見たので、はじめは少し怖かったけど、すぐにかわいいなあと思えるようになりました。乳しぼりのとき、トロトロやっていると牛にけられてしまいました。けられると思っていなかったのでもびつくりしました。三日目にはトランポリンをやらせてもらいました。庭にとても大きなトランポリンがあっただろうきました。すごい大技を見せてもらったり、とても楽しかったです。

お土産選びは悩んで選んでいった物だったのでお土産を渡すと、思ったより喜んでもらえてとってもうれしかったです。お別れ会のために浴衣を着るため、出発前に一生懸命、着付けの練習をして行きました。ホストマザーに着てもらえてとてもうれしかったです。私は、言葉は違っても、心は通じ合えると知りました。

私は、だれとでも心を通じ合える人になりたいです。



オランダの街並み



5人乗り自転車

平成 23 年度

Delfzijl

友好親善  
訪問団



ホストファミリーと一緒に  
ホストファミリーの家の前で撮った  
写真(私は前列右)

## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市立福川中学校 2年

田中 亜実

Ami Tanaka

私はこの訪問団に参加して、沢山の貴重な体験をすることができました。

飛行機に乗るのも、海外に行くのも初めてだったので、福岡空港から飛行機が離陸した時、不安で胸がいっぱいになるほど緊張しました。

オランダの首都アムステルダムでは、レンガ造りの建物や、綺麗な街並みが見られ、日本では罰せられる落書きも、芸術としてそのまま残しているというお話を聞いてびっくりしました。

デルフザイル市で初めてホストファミリーに面会したとき、優しい方たちでとても安心しました。歓迎会の後、色々とお父さんに質問されたけど、中々上手く答えることが出来ませんでした。

一緒にホームステイをした高校生のお姉さんに通訳してもらいながら、何とかホストファミリーとコミュニケーションを取ることが出来ました。家族の中には、私より年下の子がいたので弟や妹が出来たみたいで嬉しかったです。

アクティビティーでは、アーチェリーを体験したり、いかだを作ったりしました。いかだ作りは、男性陣が物凄く真剣に作業をしていたので、手伝ったのですが手伝えませんでした。そのいかだは、人が乗っても壊れずに水の上を進んだので凄く思いました。

食事の時、日本の「いただきます」にあたるものが、こちらでは祈りという事がわかりました。真似をしてみました。台詞は覚えられませんでした。今度聞いてみたいと思います。



他にも、お風呂にバスタブが無かったり、カーテンや窓を開けて家の中がわざと見えるようにするなど、色々な文化の違いを感じました。

オランダに滞在中、ホストファミリーには、本当にお世話になりました。ホストファミリープログラムの中には、ドイツの島へ連れて行ってもらったり、オランダの海岸へ連れて行ってもらったりしました。本当に楽しかったです。

初めて英語を使うという環境を体験してみて、私は、もっと自分で英語が話せたら楽しいだろうなと思いました。また、現地の方とコミュニケーションが取れたら、今以上にオランダを知ることができると思うので、英語はもちろん、他のことも沢山勉強をしてまた行きたいと思いました。

今回このような機会を与えてくださった市役所の方々、諸先生方、そして両親に感謝します。ぜひ、またオランダのデルフザイル市へ、次は自分の力で行きたいです。

今回はこのような素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

1 砂糖で見えないパンケーキ

ホストファミリープログラムの時に貰ったお菓子

2 運河 バスの中から撮った写真

日本語を勉強しているお姉さんと一緒に色々お話をしました

4 ミッフィー

ディック・ブルーナ・ハウスで展示されていたミッフィーちゃん

5 手作りのいかだ

乗ることに成功した手作りいかだ





この写真はホストファミリーと対面した時のものです。不安と緊張でいっぱいでしたがホストファミリーもホストマザーもすごく優しい方な方で安心しました。(私は前列左)

## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して



周南市立熊毛中学校 1年

岡成 そよか

Soyoka Okanari

オランダに行く前の私は、初めての海外ですごく不安でいっぱいでした。出発する日はたくさんの不安をかかえて香港に行きました。

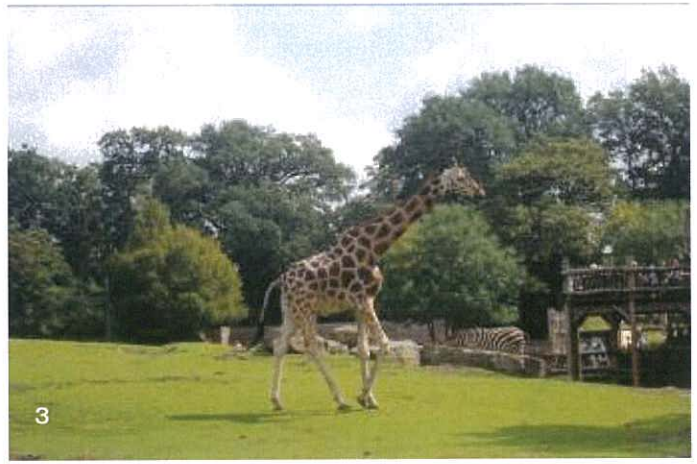
香港に着いて外に出た瞬間、「暑い！」と声を出してしまっただけで、思った以上にすごく暑かったです。香港は高い建物から低い建物まで、たくさんありました。夜景もきれいで明るいライトが特にきれいでした。

そして、夜中にアムステルダムに向けて出発しました。アムステルダムはオランダの首都だから大都会でさわさわしているかなと思っていましたが、静かな所でした。人も思っていた以上に少なかったです。

バスでアムステルダムからデルフザイルに行きました。市役所に到着すると、入口で演奏をしている人達がいきました。暑いのに一生懸命演奏している人達を見て、少し楽しい気持ちになりました。市役所で歓迎会をしていただいた後、ホストファミリーと対面しました。ホストファミリーの方は、とても優しく、おだやかな方でした。

次の日から色々な活動がありました。その中でも一番印象に残っているのが農場訪問をしている時に牛の赤ちゃんが生まれたことです。初めて赤ちゃんが生まれたところを見たので、最初は少し理解できなかったけれど、とても感動しました。

そして、八月九日のお別れの日に私は「こんな貴重な体験を出来て本当によかったな。」と思いました。その日はホストファミリーは仕事でいませんでしたが、前日に良いお別れができたと思います。



- 1 この写真は ホストファミリーの家を撮りました。最初はくつのまま入るのを見てびっくりしました。お庭には池があり、夜はたき火をしていました。
- 2 これはお別れ会の時の写真です。ホストファミリーとの最後の夜ですごくさみしかったです。
- 3 ホストファミリープログラムの日に動物園に行きました。今まで私が行った動物園の中で一番広がったです。
- 4 家のすぐ前に運河が流れていました。家も運河もきれいでした。

本当に感謝しています。  
デルフザイル市友好親善訪問団で学んだ、この三つの大切なことを今後の生活に活かしたいです。

私は、このデルフザイル市友好親善訪問団に参加して三つの大切なことを見つけました。  
一つ目は、積極的になることです。ずっとだまっていたのではなく、話しかけてコミュニケーションをとることが大切だと思いました。けれども、最初は難しくて大変でした。それでも、なるべく話しかけるようにすると楽しい時間が過ごせるようになりました。  
二つ目は、協力することです。三日目の交流会で木のボートを作るとき、最初はどのようにしていいかわかりませんが、少しずつ自分に出ることをやるようになりました。六日目の散策も協力しないと出れないと思えました。今回のプログラムには協力することがたくさんあったので、協力は大切だと思いました。  
最後の三つ目は、感謝の気持ちを持つということです。今年は東日本大震災があって、日本がとても大変な状況の中で私達がオランダに行けたのは、周南市長さんや市の職員の方々、デルフザイル市の市長さんやデルフザイル市の方々、そしてお父さんお母さんのおかげです。



市役所でホストファミリーと  
一緒に撮った写真です。  
(私は右から2番目)

## デルフザイル市友好親善訪問団に参加して

山口県桜ヶ丘学園晃英館中学校 2年

### 木原 優宏

Masahiro Kihara

私はデルフザイル市友好親善訪問団に参加して、いろいろな体験をすることができ、たくさんの思い出を日本に持ち帰ることができました。飛行機で日本から香港へ移動し、オランダの空港スキポールに着くまでの搭乗時間はとても長く感じました。オランダに着いてからのことを考えると、初めて行く場所なのでとても不安な気持ちでいっぱいでした。

オランダに到着し、まずデルフザイル市役所へ行きました。デルフザイル市役所でホストファミリーの人たちと対面し、英語で挨拶をしました。オランダ語ではなく英語で話せることが解り、言葉が通じてよかったですと思いました。ホストファミリーの家へ案内され、靴のまま家の中に入ったとき、日本とは違う慣習に驚いたと同時に外国に来たという実感がわきました。

「ヴォス家」は四人家族で、お父さん、お母さん、十六歳の男の子ウエスリーと十歳の女の子ケルシーでした。

私は英語があまり得意ではないので、とても不安でした。しかし「ヴォス家」の人たちはとても優しくユーモアがあり、気さくに話しかけてくれたので、不安な気持ちはすぐになくなりました。言葉が通じない時は、ジェスチャーをしたり笑顔をしたり、辞書を使って会話をしました。

私はこの時、言葉は通じなくてもジェスチャーや笑顔があれば心は通じるものだと感じました。



- 1 交流会でみんなと一緒にいかだを作った時の写真です。
- 2 ファームサム散策中に撮った写真です。
- 3 ホストファミリーの家で生のニシンを食べた時の写真です。
- 4 お別れ会で「となりのトトロ」を歌った時の写真です。

家族の一員として迎えてもらったので、別れの時はとてもさみしい思いをしました。またいつか会いたいです。

今回の訪問団に参加することにより、日本では体験できない異文化に触れ、楽しい時を過ごす事ができました。訪問団に参加させていただいたことに感謝しています。

デルフザイル市は、見渡す限りの緑で山もなくとても綺麗な所でした。六日目は、デルフザイルの市役所でホストファミリーとお別れ会が行われました。

お別れ会では、「となりのトトロ」をみんなで歌いました。次の日の朝、ヴオス家とお別れでした。ヴオス家の人々は、涙で送ってくれました。バスの中からお互いの姿が見えなくなるまで手を振りました。

家では、折り紙をして遊びました。折り紙はオランダでは珍しかとも喜ばれました。インターネットで、日本のアニメを日本語のまま見だったのでびっくりしました。

デルフザイル市のシーポーツ社の視察やファームサムの散策・エオリスの風車の内部を見学し、風車はオランダの人々にとって生活に密着した大切なものだという事がわかりました。ダーウインケル家の農場では、牛の生まれる現場に遭遇し、貴重な経験をすることができました。

